



2013 年 12 月 第 11 巻第 12 号

かく語りき—聖人の言葉

「靈的修行によって、過去のカルマとのつながりは断たれます。しかし、神の悟りは、神への忘我の愛なしに達成することはできません」

(ホーリー・マザー シュリー・サーラダー・デーヴィー)

「瞑想を行う者が愛の道を通じて常に私を礼拝すれば、ハートの願望はすべて打ち壊される。私がその者のハートに住まうからだ」

(シュリー・クリシュナ)

今月の目次

- ・ かく語りき—聖人の言葉
- ・ 2014 年 1 月の予定
- ・ ヴェーカーナンダ・ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・シカゴ、スワームー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年を祝う「シカゴ・コーリング」開催
- ・ スワームー・ヴィヴェーカーナンダ

生誕 150 周年記念祝賀会を韓国ソウルで開催

- ・ 活動ニュース
- ・ 忘れられない物語
- ・ 今月の思想

今月の予定

・ 生誕日 ・

スワームー・サラダーナンダ 1 月 6 日 (月)

スワームー・トゥリヤーナンダ 1 月 14 日 (火)

スワームー・ヴィヴェーカーナンダ 1 月 23 日 (木)

・ 行事 ・

1 月 1 日 (水・祝)

カルパタル

逗子協会→鎌倉大仏→カトリック雪ノ下教会→鶴岡八幡宮

11:30 スワームーより新年のごあいさつ、朗誦、輪読など

14:00 協会より参拝に出発

1月3日（金）

ホームレス・ナーラーヤナへの奉仕活動

寿町での越冬炊き出しにつき 4:00 からのスタートとなります

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

*現在は、お米のみを受け付けています。

1月4日（土）14:00～16:00

東京・インド大使館例会

講演：バガヴァッド・ギーター（無料）

場所：インド大使館 : 03-3262-2391

1月12日（日）、19日（日） 14:00～15:30

ハタ・ヨーガ・クラス *5日と26日
2月2日はお休みになります

場所：逗子本部新館（アネックス）

*体験レッスンもできます。

1月18日（土） 13:30～17:00

関西地区講話

場所：大阪研修センター

内容：「バガヴァッド・ギーターとウパニシャッドを学ぶ」

1月19日（日）10:30～16:30

シュリー・サーラダー・デーヴィー生誕祝賀会

場所：逗子本部新館（アネックス）

6:30～7:30 朝拝、朗読と賛歌（本館）

10:30 礼拝、アーラティ、花奉献

12:30 昼食（プラサード）、休憩

14:45 賛歌、

16:30 お茶

18:15 夕拝、輪読、瞑想

*1月23日～2月13日、マハーラージは訪印にて不在（23日出発、13日帰国）

ヴェーカーナンダ・ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・シカゴ、スワミー・ヴィヴェカーナンダ生誕 150 周年を祝う「シカゴ・コーリング」開催



1893年9月11日、スワミー・ヴィヴェカーナンダはシカゴ万国宗教会議で演説をして聴衆を熱狂させ、アメリカにヒンドゥー教を知らしめました。ヴェーカーナンダ・ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・シカゴ (Vivekananda Vedanta Society of Chicago、以下「シカゴ・センター」) はスワミーの生誕 150 周年を祝し、2013年11月9日から2日間にわたり市中心部のヒルトン・ホテルにて会議「シカゴ・コーリング (Chicago Calling)」を開催しま

した。ヒンドゥー教徒やオレンジ色の僧衣に身を包んだ僧侶を見かけるのはごく一般的となった現代のシカゴに、世界各地から50名の僧侶や尼僧が集まりました。会議の1日目は、スワームーが私たちに残した遺産の大きさを様々な面から考察しました。



初めに、Asheesh Sen氏がイリノイ州知事 Pat Quinn氏からの歓迎の言葉を代読しました。Quinn氏は少し前に、9月28日を「スワームー・ヴィヴェーカーナンダの日 (Swami Vivekananda Day)」とすることを全州に向けて発表しました。続いて Swami Mahayogananda が、ラーマクリシュナ僧団の長である Swami Atmasthananda からの祝辞を代読し、無限の自己を希求し自我の限界を超越するようアメリカ国民に呼びか

けたスワームーの 1893 年 9 月 28 日の演説を引用しました。

その後、午前・午後を通じて数々のスピーチが次々に行われ、スピーチの間にはこのイベントにふさわしい素晴らしい文化プログラムが披露されました。コルカタから来た Moumita Chatterjee 氏がインドの古典音楽を、Radhika Balerao 氏がスワームー作の主シヴァの賛歌を、Swami Gaurangananda がバジャンを、Pritam Bhattacharjee 氏がインドの古典的な賛歌を披露しました。また、Prithwiraj Bhattacharjee 氏が、タブラのソロ演奏を行いました。そして、最後の文化プログラムとして、Minoo Pashupathi 氏のリードで University of Chicago South Asian Vocal Ensemble がインドのフュージョン（音楽）を披露しました。

「Chicago Calling」の講演者と、スワームーに関するその講演の要旨は次の通りです。



Swami Chetanananda (Vedanta Society)

of St. Louis の長)「ナレンドラナートからスワミー・ヴィヴェーカーナンダへの変化 (The transformation from Narendranath to Swami Vivekananda) : 変貌を遂げる前と遂げた後とのスワミーについて比較を行った。スワミーは当初、非二元論 (アドワイタ) や輪廻転生、グルの教え、神の化身などを信じていなかった。が、ラーマクリシュナが繰り返し説いた無私の奉仕の理想を吸収し、鉄の意志と限りなく広がるビジョンを持った普遍的人間へと変化した、スワミーの話を知る者はその力強い眼差しに釘付けとなった。

Swami Yogatmananda (Vedanta Society of Providence)「ヒンドゥー教とその影響の再定義におけるスワミー・ヴィヴェーカーナンダの役割 (Role of Swami Vivekananda in Redefining Hinduism and its Impact)」: ヒンドゥー教とその影響の意味が改めて見直された際にスワミーが果たした役割は、人類の歴史を大きく変えたと言える。シスター・ニヴェディータはヒンドゥー教がスワミーの介在により創造されたと主張したが、同師はこれを知った当初の驚きを回想した。スワミーは目新しいことを説いたわけではなく、『ウパニシャッド』に書かれたことでもなく、ヒンドゥー教徒がまだインドに閉じ込められていた時代に、ヒンドゥー教徒であることの普遍的側面に光を当てる新たな言語を使っただ

けなのだ。「名もなく、協会にも属さない宗教」に「共通の名前を見つける」ことすら難しかった時代に、そのような宗教に土台となる「共通の基盤」を見出そうとしたのである。

Swami Yuktatmananda

(Ramakrishana-Vivekananda Center of New York)「スワミー・ヴィヴェーカーナンダ: 東西世界の架け橋

(Swami Vivekananda: a Bridge between the East and the West)」: 宗教とは「動物の (感覚中心の) 生き方から人間を経て、遂には神の (非自己的な) 性質へと人格を変化」させるものだ と定義し、これは文明の目指すゴールでもあると述べた。

Swami Shantarupananda (Vedanta Society of Portland)「ヴィヴェーカーナンダの果たした人類への貢献

(Vivekananda's Contribution to Humanity)」: スワミーが、本質的自由についての自身のメッセージをキリスト教のものにもヒンドゥー教のものにもしなかったことに着目し、これがアメリカという国の特徴でありそれ故アメリカの心に響いたことを述べた。また、西洋の知識人らがスワミーを評して述べた様々な賞賛の言葉を引用した。

Swami Tyagananda (Ramakrishna Vedanta Society of Boston)「強さに

対するスワミー・ヴィヴェーカーナンダの視点 (Swami Vivekananda's Perspective on Strength)」：スワミーが強さに対して抱いていた視点は、同師が『ウパニシャッド』から受け取るメッセージ、すなわち、真我は弱い者には達せられないというものである。人は自身の内外両方の変化に対処することができないため、恐れや漠然とした不安が生じ、真我が勇気という形で現れることを妨げる。このような不安を持つのは何かの病気にかかっているせいだというわけではなく、誰もが経験する一般的なもので、若年期には罪悪感、中年期には空虚感、老年期には死の恐怖として現れる。スワミーは著作の中で、「君自身の運命の創造者は君である」という力強い言葉を投げかけている。

Swami Baneshananda (Vedanta Society of Germany) 「普遍のヴィヴェーカーナンダ (The Universal Vivekananda)」：「我々は西洋で始まりインドで終わる」というトインビーの言葉を引用し、人類の中心や本質的自由を「普遍のヴィヴェーカーナンダ」に向けた、近現代の様々な思想家らを挙げた。

スワミー・メーダサーナンダ「スワミー・ヴィヴェーカーナンダによる『完全な人』のコンセプト (Swami Vivekananda's Concept of a Perfect Man)」：6名の日本人信者と共に出席し

た同師は、スワミーが「日の昇る国」を経てアメリカに来たことに言及し、「まず私を（完全な人として）理解すれば、ラーマクリシュナを（神性の化身として）理解するだろう」という言葉を引用した。霊性の教師は自身の限られた道だけを強調するが、ラーマクリシュナはすべての道を肯定する未来の人間である。スワミーの使命は、自身の考えた「型」で新しい種類の人間を作ることだった。その型とは、ラーマクリシュナ・ミッションのために自身がデザインした白鳥のロゴに、その構成要素が表現されている。信じやすい聴衆に催眠術でもかけてだまそうとしているのではないかという疑いに対抗して、スワミーはこう言い返した。「私は皆さんの催眠を解こうとしているのです。」スワミーの「ショック療法」は、静観の静けさ（サットワ）を（過度に）活動的な（ラジャス）西洋に説き、ラジャスを怠惰で無関心な（タマス）インドに説くものだった。これは、今なおインドの若者の心を魅了して止まない。「ブッダのハートとシャンカラの知性を兼ね備えなさい。」同師は、社会を変える方法に関するマーフィーの5つの法則を、ナスレディン・ホジャのようなユーモアを以て笑いながら提示した。

Swami Ishtananda (Vedanta Center of St. Petersburg, Florida) 「スワミー・ヴィヴェーカーナンダ：集中力の

化身 (Swami Vivekananda: The Embodiment of Concentration)」: アメリカの子供たちが、川の水面をゆらゆらと流れていく卵の殻を狙って、橋の上からライフルを撃つが全く当たらないのを見て、スワミーは笑った。それなら当ててみろと言われたスワミーは、それまで一度も銃など撃ったことがないのに 12 発中 12 発を的中させ皆を驚かせ、「すべての力は精神の集中にある」と言った。また Swami Akhandananda は、図書館からよく本を借りて翌日返しに行ったが、本当に読んだのか疑う係員に本の内容をそらんに驚かせた。その並外れた記憶力の裏にあるのは、集中力であった。

Swami Amarananda (Vedanta Centre, Geneva, Switzerland) 「スワミー・ヴィヴェーカーナンダによる東洋への貢献 (Swami Vivekananda's Contribution to the East)」: スワミーが東洋に対して果たした貢献は画期的と言えるだろう。スワミーは現代の人々のために、ヒュームのような急進的な懐疑論を学ぶことで不可知論的疑念を経験した。スワミーはヒンドゥー教よりもヴェーダーンタについて論じ、「伝統墨守」ではなく、幼児婚のような因習を非難していた。化石化した因習の代わりとなる新しい法典 (dharma shastra) を書きたかったのである。教育を重視し、特に、『ウパニシャッド』の Gargi や Maitreyi の

例を挙げ女性の教育を重んじていた。また、「イスラム教の体とヴェーダーンタの頭」をベースとする、ヒンドゥー教徒とイスラム教徒のよりよい関係を目指していた。

Swami Tattwamayananda (Vedanta Society of Northern California) 「ヴィヴェーカーナンダの哲学とその実践に必要なこと (Vivekananda's Philosophy and What We Need to Do to Implement It)」: 霊的普遍主義の統一的原理に焦点を当て、西洋の人間主義について、聖アウグスチヌスからその原点であるギリシャ哲学までさかのぼって検討した。統合と調和をめぐる宗教的思想の歴史におけるこのパラダイムの変化に影響を受けた者は、他者を傷つけることができない。

Swami Sarvadevananda (Vedanta Society of Southern California) 「多様性における霊的統一に対するスワミー・ヴィヴェーカーナンダの貢献 (Swami Vivekananda's contribution to Spiritual Unity in Diversity)」: 将来の霊性は、様々な聖典の伝統から生じ様々な聖典の伝統を経て到達するものの、宗派にとらわれることはなく、これこそが創造の計画である。統一の達成は、統一がすでにすべての中に存在していると見なすことで可能となる。

Swami Sarvarupananda (Ramakrishna

Mission, Colombo, Sri Lanka)「スワミー・ヴィヴェーカーナンダ：無私の行為の化身 (Swami Vivekananda: the Embodiment of Selfless Action)」：「私は、あらゆる所にいる人が神に到達できるまで彼らの霊性を鼓舞するだろう。私は貧しい者であり、貧しい者たちを愛している。もう一人のヴィヴェーカーナンダだけが私を理解できただろう」という言葉を引用し、霊的集団、社会的集団、一般大衆という 3 つのレベル分けをしてその違いを明らかにした。

Swami Kripamayana (Vedanta Society of Toronto)「神の恩寵を受けヴィヴェーカーナンダを助けた数人のアメリカ人 (A few blessed Americans who helped Vivekananda)」：スワミーが「今ここに我々と共にいる」と宣言し、ケイト・サンボーン、ジョージ・W・ヘイル夫人、シスター・クリスティーン、サラ・ブル、サラ・エレン・ワルドー、ジョセフィー・マクラウドのような人々が果たした運命的役割を列挙した。彼らは、スワミーが逝去した後 2 年間氣力を失っていた。

Swami Nirmalatmananda (Ramakrishna Vedanta Ashrama, Brazil)「スワミー・ヴィヴェーカーナンダ：叡智の化身 (Swami Vivekananda: the Embodiment of Knowledge)」：スワミーの教えや著書を通じて、ハートと心を結びつ

ける必要性を述べた。

Pravrajika Brahmaprana

(Ramakrishna Vedanta Society of North Texas)「スワミー・ヴィヴェーカーナンダ：信仰心の化身 (Swami Vivekananda: The Embodiment of Devotion)」：直接のビジョン (ダルシヤナ) から生まれるスワミーのバクティは、内なる叡智をその礎としていたが、ラーマクリシュナは外はギャーナ、中はすべて信仰心であった。カーリー母神とのつながりを得た 2 年後に逝去したラーマクリシュナはナレンを、単なる「完全な人」(シッダ・プルシャ) というよりも魂の救済者と見なしていた。スワミーは、兄弟僧達から信仰心を十分大切にしていなと批判されて、こう言い返した。「君たちのバクティは、センチメンタルでばかっている。私はラーマクリシュナのことを考えたり話したりすると、圧倒されてしまうのだ。」

Swami Suhitananda (General Secretary of the Ramakrishna Mission)：初めに、シカゴへの発表・案内がわずか数か月前であったにもかかわらずこのようなイベントをまとめ上げ成功させたことに対して、Swami Ishatmananda を賞賛した。そして、Swami Vireshananda がドウルガー・プーージャ用基金を洪水被害の支援金として献金したことに触れ、ラーマクリシ

ユナ・ミッションでは神よりも人を上位に置いていると宣言した。「ラマクリシュナ・ミッションは、想像力溢れる希有な人々で構成されている。彼らは、人に対して『君は人間だ』と宣言することさえできれば他に何の資格も必要ない。」ミッションの172の支部は拡大を続けている。また、この記念式典について、ヴィヴェーカーナンダは150年後に復活するというニヴェディータの予言に触れ、次の言葉を引用した。「この幼い（アメリカの）子供たちはどんなことでもすべてできるのです。もしもう一度女性に生まれるのなら、私はアメリカ人に生まれたい。」それ以来、スワミーのアイディアは思想のあらゆる面に染み渡った。スピーチの最後に同師は、現代の世界的指導者らがスワミーと彼が創設したミッションに対して表した敬意の言葉を引用した。

「シカゴ・コーリング」の最終日である9月11日、シカゴ・センターはスワミーにまつわる様々な場所を巡る観光ツアーを行いました。見学場所には、スワミーがかの有名なシカゴの演説を行った Art Institute も含まれていました。

記念式典1日目に関するレポートは、Asian Media USAの記事から抜粋させていただきました。Asian Media USAに感謝の意を表します。次号のニュースレ

ターでは、「シカゴ・コーリング」に参加した日本人信者の方からいただいた、プログラムの様子や印象などについてのレポートを掲載する予定です。



（本号のレポートおよび写真は誌面の都合で一部編集してあります。© Asian Media USA 2013
(<http://www.asianmediausa.com>) の承諾を得て掲載）

スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年記念祝賀会を韓国ソウルで開催

2013年10月20日（日）、淑明女子大学（Sookmyung Women's University）の Samsung Convention Hall で、スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年を祝して「Vivek 150 Anniversary Festival」が開催されました。このイベントは、ソウルのインディアン・カルチャー・センター（Indian Culture Center, Seoul）と在韓国インド商工会議所（Indian chamber of commerce in Korea）の協力の下、設立されて間もな

いヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・
コリア (Vedanta Society of Korea、
以下「韓国センター」) が主催し、日本
ヴェーダーンタ協会も大きく協力しま
した。



スワームījの生涯と教えについて
これ程大規模なイベントが開催された
のは韓国の歴史上初めてで、イベント
の目的は、スワームījと、真の自己
への気づきや愛の全能の力、神の悟り
などに関するスワームījの教えに対
して敬意を表すことでした。主賓は、
在韓国インド大使 Vishnu Prakash 閣下
と、日本ヴェーダーンタ協会プレジデ
ントで韓国センターの霊的アドバイザー
であるスワームー・メーダサーナン
ダでした。

祝賀会の企画・開催に当たっては、在
韓国インド商工会議所 General
Secretary の Kook Hyun Chang 氏、西江
大学 (Sogang University) 教授 Chae
Yong Kim 博士、ヨガ・インストラクタ
ーの Jeena Lee 氏と Enju Kim 氏、東ソ
ウル大学 (Dong Seoul University) 教
授 Abhjit Gosh 博士を始め、様々な韓

国人グループやインド人グループの皆
様から多大なご協力をいただき、当日
は300名を超える方々が来場されました。



祝賀会では初めに、平和のマントラを
唱えながら、スワームījの写真を載
せた祭壇脇にあるランプに火を灯し、
祭壇に花を奉獻しました。続いて、ス
ワームījの生涯についてのビデオを
上映しました。会場は霊的な雰囲気
でいっぱいになりました。

次に、在韓国インド商工会議所
General Secretary の Kook Hyun Chang
氏が、学者、学生、ビジネスマン、イ
ンド人や韓国人の各種団体の代表者な
ど様々な来場者に向かって、歓迎の挨拶
を述べられました。同氏は、スワ
ームījについて知ったのはごく最近で
あるが、この祝賀会に深く関わるよう
になったこと、人生に対するスワーム
ījの哲学や教え、思想などを知り、
韓国センターにもっと関わってスワ
ームījの教えを韓国に普及させる手伝
いをしたいと思うようになったことな
どを話されました。



インド大使 Vishnu Prakash 閣下は、スワミーがこの世に滞在した期間は短かったが、そのメッセージは普遍的で永遠に響くものだと言いました。スワミーは、すべての宗教は平等で、すべての人の中に神（アートマン）が現れているのを理解し、ヨーガや瞑想、禁欲を重視する一方、貧困や偏見、差別という悪の元凶に強く反対し、女性の地位向上、教育の普及を唱えたとお話しになりました。

日本ヴェーダーンタ協会のプレジデント、スワミー・メダサーナンダは、人生の目的は、神の礼拝を人類への奉仕という形で行うことであると述べました。西江大学教授 Chae Yong Kim 博士は、スワミーが古代の叡智を誰にでも分かるシンプルな方法で提示し素晴らしい結果を産んだと言いました。



また、「ヴィヴェーカーナンダ・ヨーガ・オリンピック (Vivekananda Yoga Olympiad)」と「スワミー・ヴィヴェーカーナンダの生涯と功績に関するスピーチ・コンテストと展示 (Speech

Contest and Exhibition on Life and Work of Swami Vivekananda)」も行われました。



ヨーガ・オリンピックは、韓国内にあって霊的貢献の精神を持つ様々なヨーガ・センターの競技会でした。一方、スピーチ・コンテストの目的は、1893年9月にシカゴで開催された世界初の万国宗教会議でスワミーが行った素晴らしいスピーチを多くの人々に知ってもらうことでした。



スワミーの生涯と業績に関する展示は注目を集め多数の人々が見学に訪れました。展示内容は、幼少時代の神への好奇心とシュリー・ラーマクリシュナとの出会いについてでした。また、このイベントでは舞踊、音楽、ヨーガ、観光、インド料理などインド文化の様々な面に触れる機会もあり、韓国舞踊やインドの伝統舞踊、バングラデシュ、アフリカ、韓国のアーティストら

による演奏も披露されました。



活動ニュース

ドウルガー・プージャ



10月12日(土)、Bengali Association of Tokyo, Japan (BATJ) により川崎市民プラザ・ふるさと劇場でドウルガー・プージャが開催されました。会場のふるさと劇場は中規模のホールで、ステージの下手に、美しいドウルガー女神の像と聖典に出てくる神々や悪魔らの像が、色とりどりの供物やキャンドルと共に飾られました。

プシュパンジャリ（花の奉獻）では、参加者が非常に多く女神に捧げる花を

一度に配りきることができない程で、奉獻は数回に分けて行われました。プシュパンジャリの順番を待つ間、マハーラージは協会から参加された数名の日本人信者の方々のために、女神像の周囲にある像の名前や女神との関係、それぞれの乗り物、女神に10本の手がある理由や手に握られた武器について説明されました。その後、別室で昼食のプラサードが振る舞われました。

午後はふるさと劇場で文化プログラムが行われ、ベンガル地方の歌、インドの伝統舞踊、寸劇などが披露されました。皆で交流を深め合う、素晴らしい祭りの一日となりました。

山形サットサンガ



11月3日(日)、山形市の遊学館にてマハーラージは「人生の目的」をテーマに講話を行いました。主催者は高橋俊誠氏で、約40名が参加しました。

講話は午後 1 時 30 分から始まり、マハーラージは、人生には次の六つの欲求があることを説明しました。

1. 長生きしたい、健康欲
2. 知りたい、知識欲
3. 喜び楽しみたい欲求
4. 自由になりたい欲求
5. 愛し愛されたい欲求
6. これらのために働きたい欲求

そして、この六つの欲求を満足させる具体的な方法についてお話ししました。これらの欲求が真に満たされるのは、真の自己である「アートマン」のレベルで満たされた場合で、それは超意識状態のサマーディに達することです。ですから、アートマンを満足させることが「人生の目的」です。

午後 3 時 10 分からの質疑応答では、心（潜在心）の浄化について、インク瓶の汚れをきれいな水で洗い流すように、神聖な神の御名を繰り返せば心が浄まる、神の御名がきれいな水であると説明しました。また、集中について、心があちこちさまよい歩くときは、親が子供をしかるように、心をなだめて落ち着かせて集中させるのがよいと話し、参加者から非常に印象的だったとの感想をいただきました。

仙台サットサンガ



11 月 4 日（月）午後 1 時から、マハーラージは、仙台市荒町市民センターにて「バガヴァッド・ギーターが説く Positive な生き方」をテーマに講話を行いました。「自分とはどういう存在であるのか、心とは何か」など、聖典をひも解きながら自分の心に問いかけ、前向きに生きていく智慧を学び、更なる気づきを深める機会となりました。

自分の心が、蠅のように汚いものにばかり群がろうとするのか、蜜蜂のように甘く実りあるものを望むのかという話では、笑いに中にも深く考えさせられる問題が含まれていました。さらに、じゃこう鹿がかぐわしい香りに引き寄せられその香りの元を外に捜し求めるが、実は自分の中から出てくることに気づいていない、などのたとえ話にうなずき、目を閉じ自分を振り返っておられる方もいたようです。

質疑応答の時間では、自分が抱えている問題についての質問などが寄せられ、ユーモアを交えながらのお話に、皆さん我がことに照らし合わせながら、深く聞き入っていました。

50 人の参加者でしたが、終了後のアンケートでは、多くの人にマハーラージのお話聞いていただきたいので、またこのような機会を設けてほしいなどの声が寄せられていました。

忘れられない物語

木こり

大変惨めな生活を送っている木こりがいた。毎日、近くの森からたくさんの木材を切り出して売り、わずかな収入を得ているだけだった。

ある時、森の中を歩く托鉢僧が通りかかって、木こりが仕事をしているのを目にし、もっと森の奥地に行くように勧めた。そうすればもっと儲かるかもしれないとほめかした。

木こりは、言われた通り森の奥へと進んだところ、サンドルウッドの木にたどり着いた。大喜びでサンドルウッドの丸太を運べるだけ運び、市場ですべて売って大儲けした。

それから、木こりは自問自答した。「あの親切なお坊さんは、なぜ私にサンドルウッドの森のことを何も言わなかったんだろう。ただ森の奥へ奥へと進むように勧めただけだった。」

そこで、翌日木こりはサンドルウッドの場所よりもっと奥へと足を伸ばしてみると、ついに銅山を見つけた。木こりは運べるだけの銅を運び、市場で売って、大金を手にした。

その翌日は、銅山の所で止まらず、僧の言葉に従ってさらに奥地に進み、銀山を見つけた。木こりは運べるだけの銀を運び、すべて売ってさらに多くのお金を得た。そうやって毎日奥へ奥へと進んで、金山やダイヤモンド鉱山を探し当て、最後には大金持ちになった。

これは、真の知識の求道者にも当てはまる。もし、人間離れした途方もない力を得てからも前進し続ければ、ついには真理の永遠の叡智を得て真に豊かになれるのだ。

(Max Müller 著『Ramakrishna: His Life and Sayings』より)

今月の思想

「唇で平和を唱える時は、ハートが平和で満たされているよう気をつけなさい」

(アッシジの聖フランシスコ)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp